12	耕作放棄田を利用した低コスト・省力化放牧
	M放牧場（兵庫県豊岡市竹野町）【肉用牛繁殖経営】

キーワード
- 景観に配慮した放牧
- 耕作放棄地への出前放牧
- 放牧で地域と都市の交流

１　地域の概要

南部の山間地帯は県立自然公園に指定されるなど、北部の海岸線から南部の高原地帯まで変化にとんだ地形を有し、人口のほとんどが町を南北に縦断して流れる竹野川流域に集中している。

山陰地方特有の寒冷、湿潤な気候を有し、冬期は南部の三原付近から南西方向へ積雪が非常に多い。しかし、但馬海岸一帯は、沖合いの対馬海流の強い影響を受けるため、寒冷で乾燥した北西季節風の吹きつける冬期間も比較的温暖で湿潤な気候となっている。

平成７年度の豊岡市の耕地面積は５,２６０haであり、農業算出額は９５．６億円となっている。

平成１８年２月１日現在の家畜飼養頭羽数は、肉用牛１,４９０頭、乳用牛７７０頭、豚７００頭、鶏１,１１０千羽となっている。

２　経営及び放牧の概要

豊岡市竹野町のM牧場は夫婦（労働力１．５人）で肉用繁殖雌牛１３頭を飼養している。

平成１２年度に飼料作物利用改善事業（日本型放牧）（国庫補助金）を活用し放牧の取組を開始した。

耕作放棄田１５ｈａに電気牧柵を設置し、肉用繁殖牝牛５頭を７月下旬から１１月上旬まで昼夜放牧している。

放牧形態は出前放牧で集落の耕作放棄田へ畜産農家自ら出向いて 放牧している。

放牧地の草種はススキやクズ等の野草が主だが、草量の維持のため、

一部イタリアンライグラスを播種している。また、濃厚飼料として定期的にふすまを給与している。

【放牧風景：野草地】

３　放牧の効果及び課題

耕作放棄田に但馬牛を放牧することによって、但馬地方独特の牧歌的景観が創出されるとともに、集落内には転作田にハスが栽培されており、但馬牛とハスの花の組み合わせが新しい景観を生み出した。

また、放牧によって多くの人が実際に草をはむ但馬牛を見ることができ、これによって人が集まる場が生まれた。

課題として、但馬地方では子牛市が定期的に行われるようになったが、依然と季節種付けが主流であるため、種付けが４月から始まり、妊娠鑑定や離乳が終了してから放牧するため放牧期間が短いことである。

【但馬牛とハス】

４　将来の計画

畜産経営において、放牧は省力化と低コスト化を図ることができる。しかし、面積が狭く、放牧面積が少ないため、放牧のメリットを十分にいかせていないのが現状である。そのため、新しい放牧地の整備が必要となっている。

また、今後は、地元住民だけでなく、都市からの住民を受け入れ、交流の拠点を作り出していく。

【小学生との交流】

執 筆 協 力・問い合わせ先
豊岡農林振興事務所農業振興課　湊
Ｔ　Ｅ　Ｌ：0796-23-1001